

「法はヒーロー」

世田谷区立瀬田小学校五年 牧内 華乃

弁護士。それは、どんな仕事だろうか。弱い立場の人を守る仕事。私はそう考えていた。でも、どうやって守るかという、具体的な答えはわからなかった。だから、この本に手をのびたのだろう。

私はある本を読んだ。その本を読み、一番深められたのは落とし物についての話だ。私の学校では、落とし物は学期末に処分されてしまう。それが気にかかっていたからだ。この本では、ある期間内に持ち主が見つからない場合、わすれた人用に利用される。このようにすることで、活用できるのだ。また、現在も問題になっているごみ問題ともつながっているのだと思った。落とし物が処分されればごみが増える。処分されなければ、意味もなく、ずっと学校に置きっぱなしになる。こんな、ヒロインが絶体絶命のとき、ヒーローが登場するのだ。法という名のヒーローは、悪役を上手くコントロ

ールしてたおすことができる。この場合、期間内という言葉を使うなど、調節をしているのだ。こんな調節ができることも、法のすばらしいことだと思った。つまり、身近な落とし物を法で活用すると、ごみが減り、ごみ問題も少しは改ぜんできるといふことだ。法一つで、世界の問題は少しずつ動かせるのだ。

しかし、法は良いことばかりとは限らない。一歩法の使い方をまちがえると、大変なことになってしまう。例えば、落とし物についての法を、「期間内に」ではなく、「落としたら」だとしたらどうなるのだろうか。落としたら、すぐに自分のものではなくってしまおうという悲しい結末になるだろう。法という名のヒーローは、良いところ・悪いところを理解し、組み合わせることによって、力が出せるようだ。

めには、法と法を理解する力が必要であると思った。そうして、法を活用することで、大きな問題への近道になるのだ。だから私も、小さなことが大きなことにつながるという意識をもち、法を使い分けて、みんなの生活を過ごしやすい生活にしたい。

この本を読んで、やっと弁護士の仕事か、やっとわかった気がする。弁護士とは、より良い生活のために、法を使い分けられる人だ。いわゆる、力のあるヒーローの才能を開花するために必要な人だ。法を通して、いろいろなことが見える。弁護士・落とし物・ごみ問題。もっとある。信号無視をする歩きの人が増えたら、罰金〇〇円という法律をつくれれば良い。そんな身近なことにも、法はかくれているのだ。

法を知れば、世界が広がって見える。法の使い方は無限だ。法は、何にでも変身して、みんなを助ける正義のスーパーヒーローなのだ。よくよく考えてみれば、私が弁護士になりたい理由も、そんな理由だった気がする。

牧内 華乃 のライフプラン

将来なにになりたいか？ 弁護士
法を使いこなして、弱い立場の人を救いたいから。
その理由：また、子どものギャクたいしいめなどのニュースを見て、なくしたいと思うようになったから→法を使えばなくせるのではないかと考えた

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2019年	11(小5)	勉強する	じゅく代
2020年	12(小6)	勉強する	じゅく代
2021年	13(中1)	中学入学 学校に慣れる	学費 受験料
2022年	14(中2)	部活&勉強に打ちこむ	学費
2023年	15(中3)	勉強する	学費
2024年	16(高1)	高校進学 勉強する	学費
2025年	17(高2)	勉強する(法律)	学費
2026年	18(高3)	勉強する(法律)	学費
2027年	19(大1)	大学法学部入学 アルバイト&勉強(英語)	学費 受験料
2028年	20(大2)	法律の勉強をする(英語) アルバイトをする	学費
2029年	21(大3)	法律の勉強をする アルバイトをする	学費
2030年	22(大4)	大学卒業 アルバイトをする	学費
2031年	23	法科大学院入学	学費
2032年	24	司法試験合格	学費 受験料
2033年	25	法科大学院卒業 司法修習	学費
2034年	26	修了試験合格	学費 受験料
2038年	30	子どものギャクたいしいめ専門の法律事務所を立ちあげる 弁護士のしゅうかの本を出す	事務所を立ちあげるためのお金 本を出すお金

ギター部に入ら、勉強の息ぬきをする

自分が「弁護士になるまでの道のり」を次世代に伝えるために本を出す。

弁護士についての本をたくさん読んでみる

法律の勉強を始める

外国でも話せるようになるために英語を話せるようになる